

第1WGにおける論点等（案）

1. 就労能力や適性の評価（以下「アセスメント」という。）に係る現状の課題

- 支援の利用に当たって、その判断が現場に任せられているのではないか。
- そのため、障害者の就労能力や一般就労の可能性について、障害者本人や障害者を支援する者が十分に把握できておらず、適切な支援等に繋がられていない場合もあるのではないか。

2. 論点

(1) アセスメントの位置づけ

- アセスメントが適切に行われるため、その目的をどう考えるか（障害者本人のニーズの実現、障害者本人にとって最もふさわしい支援の選択等）
- 「福祉」から「雇用」（又は「雇用」から「福祉」）における切れ目ない支援の実現に向けてどう活用するか。
- 標準的なツールの必要性についてどう考えるか。
- 対象者の範囲をどう考えるか。

(2) アセスメントの結果を活用する場面について

- 福祉の現場での活用についてどう考えるか。
- 雇用の現場での活用についてどう考えるか。
- 教育等の現場での活用についてどう考えるか。
- その他、活用する場面が考えられるか。

(3) アセスメントの実施主体について

- 全国での実施の必要性を踏まえ実施体制をどう構築するか。
- アセスメントの質をどう担保するか。

(4) アセスメントするに当たっての留意点について

- 目的を実現する上でどのような点に留意すべきか。